

事例 18 愛知県高浜市

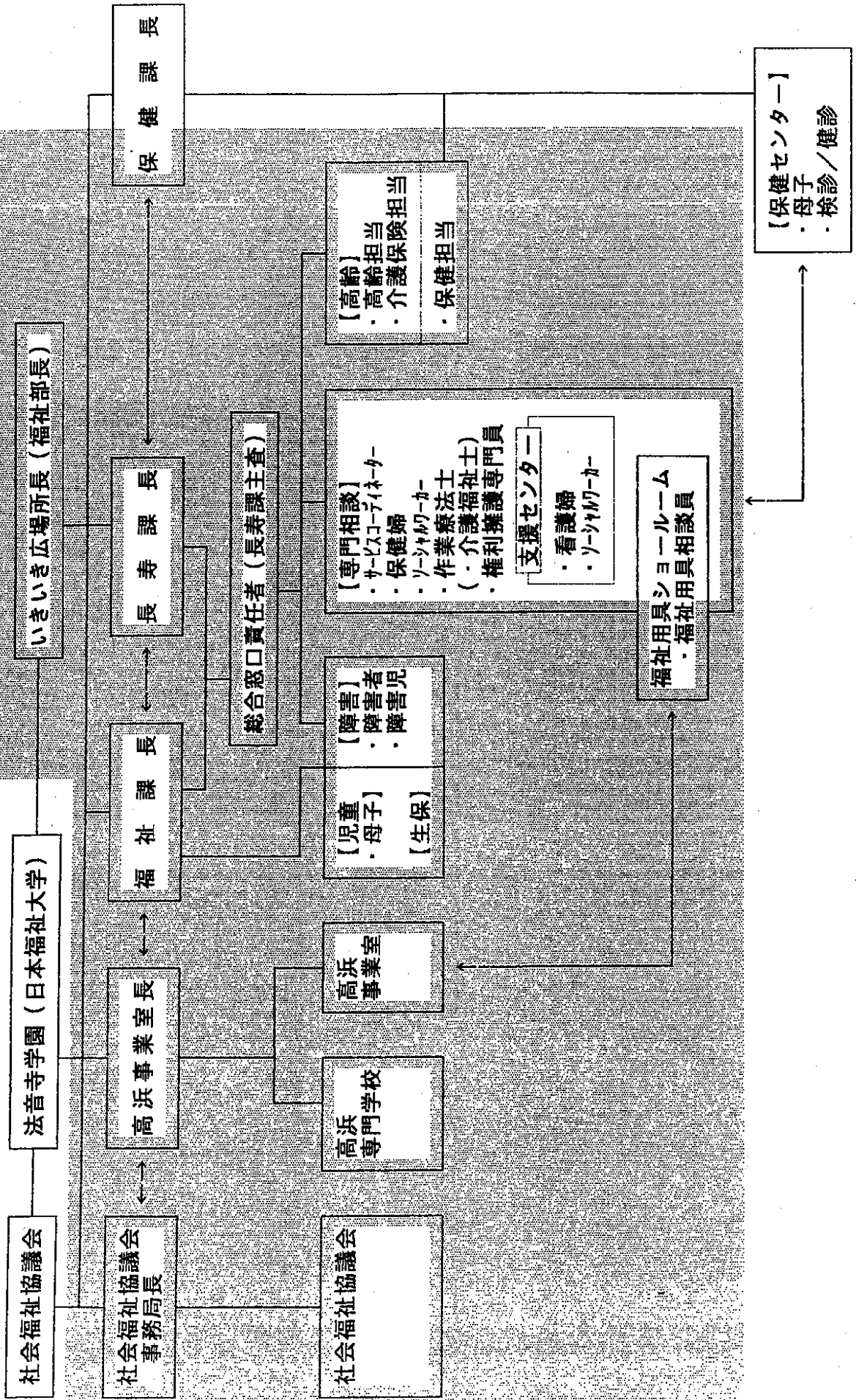
人 口	39,231 人
高齢者数	6,026 人
高齢化率	15.36%
担当部署	福祉部長寿課

1. 市町村の概況

市町村の沿革・概要	明治22年10月 町制施行により高浜村、吉浜村、高取村と存す。 39年5月 当時の高浜町、吉浜村、高取村の一町二村が合併し、新しく高浜町として発足 昭和45年8月 町議会において市制施行と議決 12月 市制施行									
	人口	39,231 人			高齢者数(高齢化率)	6,026 人(15.36%)				
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯						
	—			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯				その他	
				360	714				—	
要介護認定(申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計	
	—	19	55	217	115	82	92	86	647	
社会資源状況	指定居宅サービス事業所 (か所数)			訪問看護 (2)	訪問介護 (1)	通所介護 (3)				
				通所リハ (1)	短期入所系 (3)	その他 GH2,入浴,訪問リハ (4)				
	指定居宅介護支援事業所 (か所数)			3 か所						
	保健センター 在宅介護支援センター (か所数)			1 2 (基幹1, 地域1) 1 いまいる広場 総合窓口 (保健福祉の総合窓口) ※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。						
介護予防事業の拠点となりうる場 (か所数) (公的施設以外も含む)			空老所 5か所 ものづくり工房 1か所 IT工房 1か所 ふれあい工房 2か所 老人憩の家 9か所							
介護予防事業の担い手となりうる組織・団体 (組織・団体数、人員数)			在宅ボランティアサークル70, 民生委員等を始めとした 317サークル 約500人							

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。

いきいき広場



質問事項	回答欄
(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか？	宅老所・ものづくり工房・IT工房関連(類似)事業はなかった。
(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか？ また、その事業内容についてもご記入ください。	
(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか？	
(問4) 従来(問1)の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記のような点を含めて記入して下さい。 ・ 中心となった部局はどこか？ ・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？	
(問5) (問1)で関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。 今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度の施行により、今までのサービスが受けられなくなる者への受け皿の整備が必要であった。 ・ 介護保険と介護予防とは車の両輪であると考え、要介護者だけでなく自立者を支えていく介護予防のため拠点施設等を整備する必要があった。 ・ そんな折、10/10の補助金の話があり、財源も確保できたことから、これらの介護予防拠点施設の整備に至った。 ・ まず最初に宅老所をオープンしたが、利用者の9割以上は女性であり、どうすれば男性にも来てもらえるのか？との発想から、トヨタ関連出身で技術を持った高齢者や地場産業である瓦職人の多い地域性を活かし、ものづくり体験ができる工房があれば男性も通ってくれるのでは？と期待し設置することとなった。 ・ 市内にあるアカデミーの受講生の多くは高齢者であり、パソコンに対する高齢者の意識の高さが伺えた。せっかく学習してもそれらを活用したり、復習することのできる場がなかった。これら卒業生の生きがいの場とするとともに、これらの者が指導者となって同世代でマンツーマンでアドバイスや指導が受けられる施設があれば、まったくパソコンの知識のない高齢者でも気軽に利用でき、外出の機会を提供することができるのでは？との発想からIT工房を設置することとなった。

質問事項	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・ 学職経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・ 高齢者やその家族、他住民等の参加する機会があったのか？ ・ どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうでしたか？ 	<p>宅老所・ものづくり工房・IT工房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空店舗、空保育室、民家、空倉庫等ある財を有効に再活用し、介護予防拠点施設を整備した。(一部借上げ) ・ 施設運営については、地域住民を中心としたボランティアでの参加を呼びかけた。公募をしているは、これらの全ての施設をカバーするだけの人数は集まらないことは分かっていたので、行政で心当たりのお宅や団体・企業等を周りお願いをした。現在延べ500人程度の方が運営を支えている。 ・ 学職経験者については特に調整はしていない。運営をお願いするボランティアとは何度も打ち合わせをした。施設ネーミング等もボランティアに決めてもらった。運営方法についても極力ボランティアの意見を尊重した。 ・ 特に参加する機会はなかったが、ボランティアとして関わる高齢者や地域住民との話し合いの場は何度も持った。 ・ 長寿課が中心となり、委託先である社協・日福等と連携し、運営方法等に関する話し合いを進めた。
<p>(問2) 「介護予防事業を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・ 事業対象者の選定方法はどうか？ ・ 事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・ 既存の設備の利用が可能か？新たな設備整備が必要か？ ・ どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの実施 ・ 見守り推進事業等を通じた高齢者の声の把握 ・ ボランティアの意見等も聞きながら、原則的に、自立者となったが、ケアマネージャーの判断により要支援以上の者の利用も可能となるケースもある。 ・ 人材確保については、当初より職員の配置はせずボランティアでの運営で進めていくこととなった。(これからの高齢化社会を乗り切るためには、行政が全てを行うのではなく、いかに地域住民を巻き込むことが重要かと考えた。) ・ 施設等の整備にあたり、使えるものは極力有効活用した。備品や消耗品等の購入についても、企業に寄附をお願いしたりリサイクル製品を使用したりした。 ・ 地域住民を巻き込むことにより人件費が抑制できコスト削減につながる。また施設整備、完成後に係る運営費についても、極力補助金を充当し、一般財源の支出を抑えた。

5 「介護予防事業」の実施について

愛知県高浜市

質問事項	回答欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入してください。</p>	<p>事業名 「宅老所管理運営事業」</p> <p>事業目的 〃</p> <p>対象者 〃</p> <p>事業内容 〃 別紙</p> <p>開始時期 〃 「宅老所の概要」、「運営協力者一覧表」のとおり</p> <p>実施回数 〃</p> <p>実施体制 〃</p> <p>事業予算 8,036,000円 (5施設合計)</p> <p>補助金 (施設・設備整備) 社会福祉施設等施設整備費及び社会福祉施設等設備整備費(介護予防拠点整備事業)補助金 <10/10> (運営費) 介護予防・生活支援事業(生きがい活動支援通所事業)補助金 <3/4></p> <p>事業所管課 長寿課</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p>	<p>広報による周知(オープン後も定期的に掲載)</p>
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入してください。</p>	<p>平成11年度 延べ2,439人 一日平均11.3人</p> <p>平成12年度 延べ5,517人 一日平均15.5人</p> <p>平成13年度(11月末現在) 延べ4,058人 一日平均16.6人</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>① 地域住民主体のボランティアでの運営のため、家庭の延長のようなアットホームな雰囲気の中で運営がされており、利用者も気軽に利用しやすい点。</p> <p>② 宅老所ができたことにより、自宅以外の居場所をつくることのできた高齢者がたくさんいた点。</p>
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入してください。</p>	<p>① ボランティアとの定期的なミーティング等の実施</p> <p>② 利用者・ボランティアを対象としたアンケートの実施</p>
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入してください。</p>	<p>① 今以上により多くの高齢者に宅老所を利用してもらうためには、何をすればよいのか？</p> <p>② 施設により異なる昼食料金(利用者は全ての施設が自由に利用できるため施設により支払う料金が異なる。)</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等があれば記入してください。</p>	

質問事項	回答欄
(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入してください。	事業名 「ものづくり工房管理運営事業」 事業目的 〃 対象者 〃 事業内容 別紙 開始時期 「ものづくり工房の概要」のとおり 実施回数 〃 実施体制 〃 事業予算 7,619,000円 補助金 (施設・設備整備) 社会福祉施設等施設整備費及び社会福祉施設等設備整備費(介護予防拠点整備事業)補助金<10/10> (運営費) 介護予防・生活支援事業(生きがい活動支援通所事業)補助金<3/4> 事業所管課 長寿課
(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか?	広報による周知(オープン後も定期的に掲載)
(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入してください。	平成12年度 延べ660人 一日平均6.8人 平成13年度(11月末現在) 延べ990人 一日平均8.1人
(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか?	① ものづくりの拠点を整備したことによる男性高齢者の居場所が確保できた点。(宅老所はほとんどが女性)
(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入してください。	① ボランティアとの定期的なミーティング等の実施
(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入してください。	① 今以上により多くの高齢者に工房を利用してもらうためには、何をすればよいのか? ② 利用者の固定化 ③ スタッフのNPO化
(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等があれば記入してください。	

5 「介護予防事業」の実施について

愛知県高浜市

質問事項	回 答 欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入してください。</p>	<p>事業名 「IT工房管理運営事業」</p> <p>事業目的 } 対象者 } 事業内容 } 別紙 開始時期 } 「IT工房の概要」のとおり 実施回数 } 実施体制 } 事業予算 4,761,000円 補助金 (施設・設備整備) 社会福祉施設等施設整備費及び社会福祉施設等設備整備費(介護予防拠点整備事業)補助金<10/10> (運営費) 介護予防・生活支援事業(生きがい活動支援通所事業)補助金<3/4> 事業所管課 長寿課</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p>	<p>広報による周知</p>
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入してください。</p>	<p>平成13年度(12月末現在) 延べ435人 一日平均12.1人</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>オープンして間がないため、施設の運営スタイル等においては、現在試行錯誤しており、うまくいっているのか？いないのか？までのところまではまだいっていない。 ただ、利用者は予想以上に多く、高齢者のパソコンに対する意識の高さを感じとれる。</p>
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入してください。</p>	<p>① ボランティアとの定期的なミーティング等の実施</p>
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入してください。</p>	<p>① スタッフのNPO化</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等があれば記入してください。</p>	

質問事項	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>① 各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p> <p>② 具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※ 「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>宅老所・ものづくり工房・IT工房とも行っていません。</p> <hr/>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>① 介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p> <p>② 各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	<p>現在は評価していません。 利用者等の利用状況・アンケート等を踏まえ、利用者個々の医療費等の変化について分析をしていきたいと思う。</p> <hr/>

宅老所の概要

1. 目的

介護保険制度の対象とならない高齢者等の自立した生活を支援するため、宅老所を設置することにより、多く的高齢者等に外出の機会を提供し、痴呆予防・家での閉じこもりを防止する。

2. 事業内容

おおむね65歳以上で見守り等の必要がある者を一時的に預かり、一緒に話や食事をしたりすることで利用者の精神的サポートを行うとともに、保健婦による痴呆予防講座等を積極的に実施し、利用者の痴呆予防に役立てる。

3. 運営方法

高浜市が実施主体となり、運営を高浜市社会福祉協議会に委託をし、社協会員である地域のボランティアの方々の支援を得ることにより、より家庭に近い雰囲気身を身近な場所で提供する。

4. 利用方法

宅老所又はいきいき広場で登録が必要。

5. 施設別の概要及び特徴

(1) 宅老所「じい&ばあ」

① 所在地	高浜市青木町四丁目7番地1 (旧米津家具店)
② 改修面積	107.50㎡
③ 整備内容	和室(15畳)・喫茶コーナー・多目的トイレ等の設置
④ 開所時期	平成11年8月23日
⑤ 開所日	日・水・土曜日(年末年始を除く)
⑥ 開所時間	午前10時から午後4時まで
⑦ 食事	ボランティアによる手づくりの昼食を提供(実費200円)
⑧ 特徴	喫茶コーナーを設置することにより、利用者相互間及び地域住民とのコミュニケーション及び交流を促進する。

(2) 宅老所「いっぷく」

① 所在地	高浜市青木町九丁目2番地5 (高浜老人ふれあいの家)
② 改修面積	160.69㎡
③ 整備内容	浴室・食堂・和室(16畳及び21畳)・トイレ等の設置
④ 開所時期	平成11年8月23日
⑤ 開所日	木・金曜日(年末年始を除く)
⑥ 開所時間	午前10時から午後4時まで
⑦ 食事	市内の飲食店等からの出前により対応
⑧ 特徴	浴室及び食堂を設置することにより、ミニデイサービスのな事業を行うとともに、憩の家利用者とともに共同で使用することにより、同世代交流を推進する。

(3) 宅老所「あっぱ」

① 所在地	高浜市田戸町三丁目8番地21 (旧高浜市立南部保育園)
② 改修面積	172.03㎡
③ 整備内容	和室(18畳)・洋室・多目的ホール・多目的トイレ等の設置
④ 開所時期	平成11年8月23日
⑤ 開所日	火・土曜日(年末年始を除く)
⑥ 開所時間	午前10時から午後4時まで
⑦ 食事	ボランティアによる手づくりの昼食を提供(実費300円)
⑧ 特徴	隣接する保育園の園児や子育て支援参加の親子と一緒にふれあい、楽しさを感じることで世代間交流を推進する。

(4) 宅老所「こっちゃん」

① 所在地	高浜市呉竹町二丁目2番地2 (西野医院跡東)
② 改修面積	129.38㎡
③ 整備内容	和室(28畳)・ティーラウンジ・調理室・多目的トイレ等の設置
④ 開所時期	平成12年10月1日
⑤ 開所日	月・金曜日(年末年始を除く)
⑥ 開所時間	午前10時から午後4時まで
⑦ 食事	ボランティアによる手づくりの昼食を提供(実費300円)
⑧ 特徴	家庭的保育事業参加の子供たちとのふれあいを通して、新しいコミュニケーションづくりを推進するとともに、ティーラウンジを設置することで、喫茶店のような雰囲気をかもしだし、利用者等の自由な出入りを可能とすることで、利用者間等のコミュニケーション及び交流を推進する。

(5) 宅老所「悠遊たかとり」

① 所在地	高浜市本郷町六丁目6番地15 (みどり学園)
② 改修面積	357.67㎡
③ 整備内容	和室(17.5畳)・食堂・多目的ホール・多目的トイレ等の設置
④ 開所時期	平成12年10月1日
⑤ 開所日	日・木曜日(年末年始を除く)
⑥ 開所時間	午前10時から午後4時まで
⑦ 食事	ボランティアによる手づくりの昼食を提供(実費100円)
⑧ 特徴	なかよし教室や家庭的保育事業参加の子供たちとのふれあいを通して、新しいコミュニケーションづくりを推進する。

6. 使用料

(1) 往復送迎利用の場合	… 400円
(2) 往路又は復路送迎利用の場合	… 300円
(3) 送迎を利用しない場合	… 200円
(4) 喫茶コーナーのみ利用の場合(じい&ばあ)	… 無料

7. 改修費・備品購入費及び運営費

(1) 改修費(じい&ばあ)	… 8,505,000円 {10年度介護保険関連サービス基盤整備事業費補助金(10/10)}
(2) 改修費(いっぶく)	… 24,675,000円 { " }
(3) 改修費(あっぱ)	… 8,767,500円 { " }
(4) 改修費(こっちゃん)	… 24,412,500円 {12年度介護予防拠点整備事業費補助金(10/10)}
(5) 改修費(悠遊たかとり)	… 41,464,500円 { " }
(6) 備品購入費(5施設)	… 9,716,410円 { " (「こっちゃん」「悠遊たかとり」のみ)(10/10) }
(7) 13年度運営(5施設)	… 5,895,000円 {介護予防・生活支援事業費補助金(3/4)}

ものづくり工房「あかおにどん」の概要

1 目的

- (1) 今後増大する「企業OB高齢者」や「地域の職人」等が、定年後も気軽にこの工房を利用し、現役時代に修得した技術等を活かすことで「いきがい」の場を提供する。
- (2) 多くの高齢者等に外出の機会を提供し、痴呆予防・家での閉じこもりを防止する

2 事業内容

(1) 福祉用具暮らしの道具コーナー

高齢者や障害者等が使用する日常的な生活用品・既製品の福祉用具等を、福祉施設や個人のニーズに応じて製作・改良等を行う。

(2) かわらコーナー

窯業（三州瓦）の地場産業を活かし、瓦の素材を使って生活空間を豊かにする雑貨・インテリア用品等を創作する。

(3) 自由工作コーナー

子供から高齢者までが参加できるものづくりに関するイベントを実施し、世代間交流を推進するとともに、工房にある工具等を自由に使用できるようにすることで、誰でも気軽にものづくり体験ができ、仲間づくりや親子の交流を深める場を提供する。

3 運営方法

高浜市が実施主体となり、運営を学校法人法音寺学園（日本福祉大学高浜事業室）に委託し、企業OB高齢者や地域の職人等の支援を得て行う。

4 利用方法

スタッフとして利用する場合は、工房で登録が必要。

5 所在地及び改修面積

高浜市青木町九丁目6番地5（かわら美術館北） 208.88㎡

6 開館時期

平成12年10月1日（日）

7 開館日および時間

年末年始を除く毎週火・木・土・日曜日の午前10時から午後4時まで

8 使用料（イベント参加・工具使用の場合のみ）

(1) 高校生以上 200円/日

(2) 小学生及び中学生 100円/日

9 事業費	改修費	32,949,000円	{11年度介護予防拠点整備事業費補助金(10/10)}
	備品購入費	2,467,000円	{11年度介護予防拠点整備事業費補助金(10/10)}
	〃	1,227,786円	{介護予防・生活支援事業補助金(3/4)}
	13年度運営費	6,239,000円	{介護予防・生活支援事業補助金(3/4)}

IT工房「くりっく」の概要

- 1 目的 パソコンをツールとした高齢者同士の交流・高齢者の子、孫との交流、他の地域と的高齢者との積極的な交流により介護予防施策として閉じこもり予防、痴呆予防を図る拠点の整備。
平成12年度介護予防拠点施設整備事業として 28959000円
設備整備事業として 2470000円を繰り越して設置。
- 2 施設の概要
 - ・高浜市青木町三丁目5番地15 (旧米津家具店) 154.89㎡
一階、二階部分 一階一部で子供との交流を狙った家庭的保育事業を同時に実施(刺激、活気づけ)(日曜以外 8時30分から6時まで)
ITフロアー、パソコン体験コーナー、和室等設置。
一階 6台・二階 9台のパソコンの設置(一階部分はトヨタ系企業のリサイクル機器)
 - ・平成13年10月6日(土)オープン予定 水・土・日 午前10時から4時
- 3 事業内容・特徴
 - ・高浜市社協のホームページを今年度中を目途に作成。
OBスタッフが中心となり、現役スタッフがサポートする方法
 - ・高齢者を対象とした企画の実施
パソコンに全く触ったことのない方でも気楽に楽しんでもらえる企画。
(外出の機会を提供する)
5から6人位の少人数制としてマンツーマンの指導。(高齢者同士の交流)
パソコンについての駆け込み寺的要素も持たせる。
企画案
孫へEメールを送ろう。わしが作った年賀状。ネットの輪を広げよう。
将棋・囲碁大会。早撃ち大会
- 4 スタッフ状況
 - ・9月16日 現在35名 OBスタッフ15名・現役スタッフ 20名 計
35名
(21歳から72歳まで)市内19、市外16人 男25・女10人
- 5 委託先 市内ものづくり工房以外の宅老等について全て管理していることから人的面からも一体的な管理が可能、また、社協の持っている他のボラとの交流も可能となりスタッフに広がりを持てる等から高浜市社協

3 「介護予防事業」を企画する前の状況について

愛知県高浜市

質問事項	回 答 欄
(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか？	パワーリハビリテーション(類似)事業は、当施設マシンスタジオ内に於いての高齢者に限定しないマシントレーニングの事業はあったが、対象を高齢者の虚弱に限定したものは初の取り組みである。
(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか？ また、その事業内容についてもご記入ください。	根拠：市民の健康増進 部局：福祉課 内容：高齢者に限定しないマシントレーニング
(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか？	マシンスタジオ利用者の国保医療費情報を過年度にさかのぼり集計した。
(問4) 従来事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記のような点を含めて記入して下さい。 ・ 中心となった部局はどこか？ ・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？	中心部局：長寿課 きっかけ：北里大学の研究により、高齢者の下肢筋力強化により、歩行の安定を図ることができた結果を受けて。
(問5) (問1)で関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。 今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？	・ 介護保険と介護予防とは車の両輪であると考え、要介護者だけでなく自立者を支えていく介護予防のため事業展開が必要であり、宅老所等の取り組みはあるが、直接的に高齢者のレベルアップを図る事業として取り組んだ。

質問事項	回答欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・ 学職経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・ 高齢者やその家族、他住民等の参加する機会があったのか？ ・ どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうでしたか？ 	<p>場：いきいき広場マシンスタジオ 機関・団体：マシンスタジオスタッフ・所管部署 市立病院 在宅介護支援センター 居宅支援事業所 保健センター（保健課） 長寿課</p> <p>学識経験者：札幌市健康づくり振興財団 現場：上記講師による研修会の開催・中間サポート また、事業担当者の打ち合わせを開催前から定期的に持っていた。</p> <p>住民等参加：事業実施前にはなし 部局：長寿課 協力体制：マシンスタジオ・市立病院・長寿課の協力が中心</p>
<p>(問2) 「介護予防事業を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・ 事業対象者の選定方法はどうか？ ・ 事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・ 既存の設備の利用が可能か？新たな設備整備が必要か？ ・ どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<p>ニーズ把握方法： 転倒骨折予防は、現在では介護予防の根幹的テーマであるが、教室参加者の直接ニーズはケアマネ・在宅介護支援センター等により把握。教室の参加者の募集には、病院PT、マシンスタジオインストラクター等の協力を得た。</p> <p>事業対象者選定： 病院PT、マシンスタジオインストラクター、ケアマネ等の情報を活用し、担当者にて検討。</p> <p>人材確保： 長寿課が中心となり、病院・マシンスタジオ等の協力を得る。</p> <p>設備： マシンスタジオのフロアーはそのまま活用。マシンについては新規の購入とした。</p> <p>予算化： 長寿課が介護予防・生活支援事業の補助金の活用。福祉先進自治体ユニットの研修会参加等により実現。</p>

5 「介護予防事業」の実施について 「パワーリハビリテーション事業」

質問事項	回答欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入してください。</p>	<p>事業名 「パワーリハビリテーション事業」</p> <p>事業目的 高齢者の下肢筋力強化と柔軟性の向上を図ることにより転倒骨折を未然に防ぐ</p> <p>対象 虚弱高齢者や軽度の介護を必要とする高齢者（要介護認定では要支援から要介護2までの判定）</p> <p>事業内容 定期的なマシントレーニング等を3ヶ月間にわたり実施。スタッフが個人の身体状況にあわせてサポートする。</p> <p>開始時期 H13年10月～14年1月</p> <p>実施回数 毎週2回 3ヶ月間24回のほか教室前後に体力測定を実施</p> <p>実施体制 スタッフ 健康運動指導士・理学療法士・保健婦等 研修 先進地の指導員により研修実施後に教室開催</p> <p>事業予算 305,101円</p> <p>参加費用 7,200円</p> <p>補助金 介護予防・生活支援事業補助金3/4補助</p> <p>事業所管課 長寿課 他課との連携 市立病院・居宅支援事業所・マシンスタジオ等</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p>	<p>広報 ポスター掲示 チラシ配布 担当者からの紹介</p>
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入してください。</p>	<p>年間実施回数 1クール (26回) 毎週2回 (火・金)</p> <p>参加者 実人数 8人</p> <p>のべ参加者数 現在教室実施途中につき集計できず</p>

<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見てうまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>少人数に対しての教室ではありますが、参加者の筋力強化・柔軟性の向上には大きな成果があると感じています。</p>
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入してください。</p>	<p>単課での対応では十分なマンパワーの確保が困難であるが、病院・マシンスタジオ等々の協力・共働により教室運営することで医療・健康増進・介護予防的側面をつなげていくことができます。疾病を持っている高齢者の運動・筋力トレーニングには危険も多いのですがその点において工夫をしています。</p>
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入してください。</p>	<p>①虚弱な高齢者を参加対象としているが、送迎の問題が大きなネックになっている。 ②主治医との調整等 ③参加費の問題 ④病院PTの協力確保（マンパワー）</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入してください。</p>	<p>① 来年度参加の状況を見て、送迎サービスについても検討していく。 ② 今回が初回の事業開催である為、今後とも主治医の理解・協力が得られるように事業の成果等を報告していく。</p>

6 「介護予防事業」評価について

※ 行政が主体になって実施する（直営・委託）保健・福祉事業に対する評価についてうかがいます。

<p>(問1) 「事業ごとの評価」についてうかがいます。 ①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>行っていない</p>
<p>(問2) 「介護予防事業評価」についてうかがいます。 ① 介護予防事業全体として費用対効果をどのように評価していますか？ また、どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>現在は評価していない。 しかし、今後については、パワーリハビリテーション教室の参加者の医療費について変化を見ていきたいと考える。</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などあれば記入してください。</p>	<p>なし</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入してください。</p>	<p>③ 来年度参加の状況を見て、送迎サービスについても検討していく。 ④ 今回が初回の事業開催である為、今後とも主治医の理解・協力が得られるように事業の成果等を報告していく。</p>